

ふ た ま た

二又遺跡

—掘立柱建物跡を伴う平安時代の集落—
現地説明会資料（平成23年8月6日13:30～）



大型柱穴で構成される掘立柱建物跡

所在地：盛岡市下飯岡1地割55-1ほか

事業名：主要地方道盛岡和賀線道路改良工事

委託者：盛岡広域振興局土木部

調査面積：3,400㎡

はじめに

二又遺跡は、盛岡市役所の南西約4.5km、盛岡駅の約3.5kmに位置しています。北西1.5kmには、国指定史跡の志波城があります。

これまで、盛岡市教育委員会による調査が行われていて、今回は第11次調査ということになります。

見つかった遺構

平安時代の竪穴住居跡

調査区全体で8棟見つかりました。正方形に地面を掘り、煮炊きをするためのカマドが壁に取り付けられています。カマドがあった場所は床面が赤く焼けていて、煙を屋外へ出す煙突として煙道が作られています。竪穴の床面には、柱を建てるための柱穴や、物を貯蔵するための穴があります。竪穴住居の内部からは、土師器・須恵器などの土器や、鉄製品などが出土しています。



炭化材が出土した3号竪穴住居跡

3号竪穴住居跡は、床面上から炭化材が大量に出土し、火災により焼けた家の跡と考えられます。

掘立柱建物跡（表紙の写真）

調査区中央で1棟見つかっています。10個の柱穴が、長方形に並んでいます。2間×3間で、全体の規模は約8m×5.4mになります。柱穴の規模がどれも1m前後と大きいのが特徴です。柱を据えた後、周りに土を埋め戻して突き固めた様子が確認できます。



柱穴の断面

円形周溝

調査区中央で、円形に巡る溝跡（西側の一部は調査区外）が見つかっています。南北方向の直径が約3.8mです。本来は溝に囲まれた内部に土を盛り上げて、塚があったものと推定されます。お墓の可能性もあります。



竪穴建物跡

調査区南側で1棟見つかりました。竪穴住居と同様に地面を掘りくぼめたものですが、カマドはありません。竪穴の壁に沿って柱穴が並んでいます。柱穴は深くしっかりと掘られています。



平安時代の遺物

平安時代の土器は、土師器（低い温度で野焼きで焼かれたもの）と須恵器（窯の中で高い温度で焼かれたもの）があり、土師器は坏（食器として使われたもの）・甕（調理用のなべとして使われたもの）、須恵器は坏・甕・壺（貯蔵用）などの器種があります。土器以外に、鉄製の鋤先・紡錘車なども見つかりました。

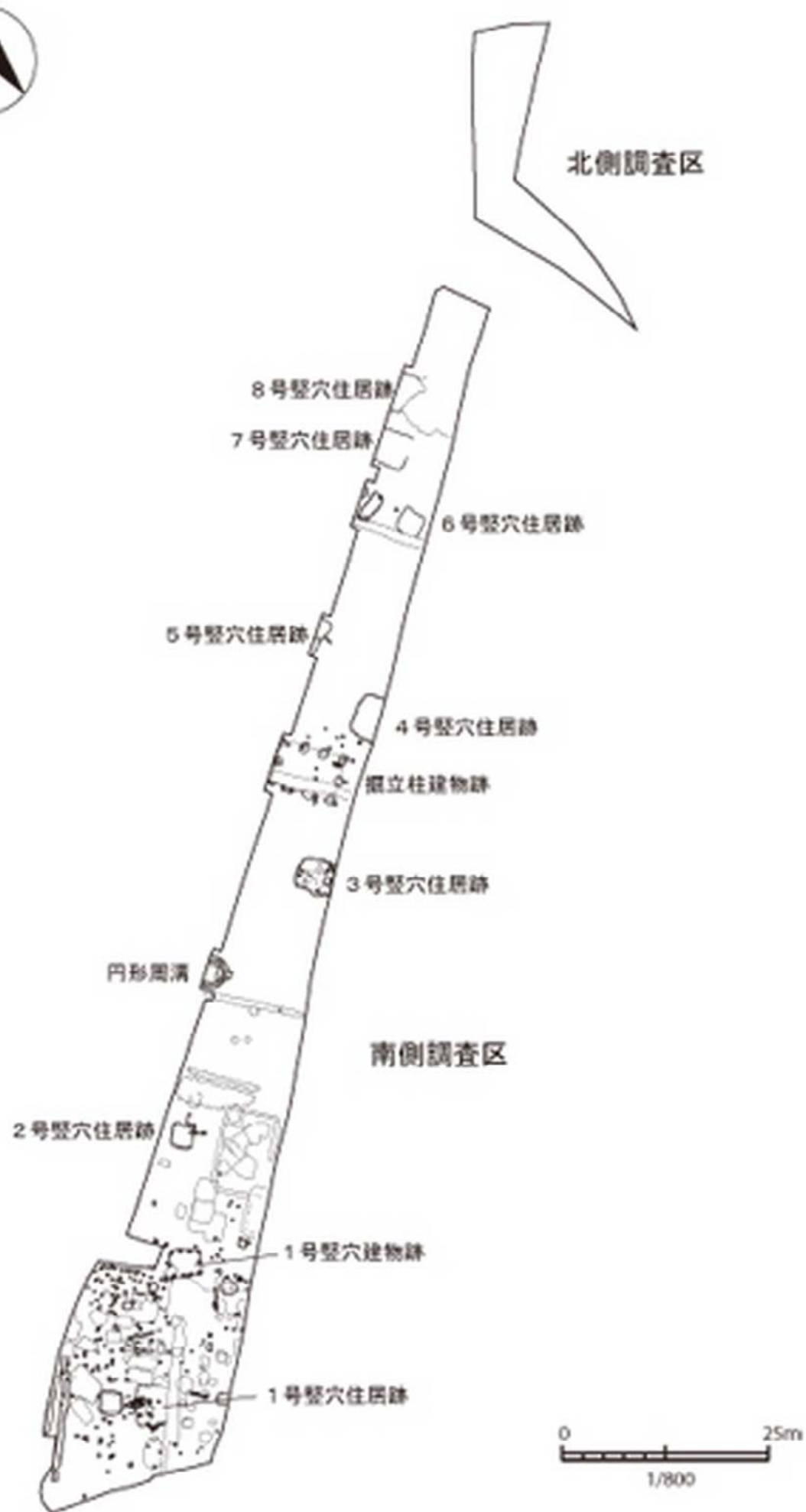
その他

平安時代以前では、縄文時代の陥し穴や縄文土器（晩期）・石鏝が見つかりました。平安時代以降では、江戸時代のお金や陶磁器などが見つかりました。

さいごに

これまでの調査で竪穴住居跡をはじめとして多くの遺構・遺物見つかかり、集落の様子が少しずつ明らかになってきました。調査はまだしばらく続きます。

最後に、調査にあたってご協力いただいた盛岡広域振興局土木部、盛岡市教育委員会、周辺住民の方々に厚くお礼を申し上げます。



二又遺跡 遺構配置図